

愛知県ハンガリー友好協会会報

2018年初春号

《 年頭のごあいさつ 》

愛知県ハンガリー友好協会会長
参議院議員 藤川 政人

あけましておめでとうございます。

愛知県ハンガリー友好協会の皆様におかれましては、ご健勝にて新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。



昨年は協会設立 20 周年を迎え、様々な記念行事を開催して参りました。ハンガリーフェスティバル in 愛知をはじめ、ハンガリー刺繍教室作品展、ハンガリー料理を楽しむクリスマス会など毎年開催している多くの行事も記念行事として盛大に開催されました。また、会の設立から 20 年を振り返り、記念誌を発行致しますのでご一読をいただければ幸いです。会員各位のご支援・ご協力のもと、こうして 20 周年を終え、新しい年を迎えることができましたことに心から感謝申し上げます。

伝統的に良好な関係を築いてきたハンガリーには 150 社以上の日系企業が進出し、また昨年、日欧 EPA 交渉が妥結され、本年には署名が予定されるなど日本とハンガリーは益々そのつながりを強めています。特にこの愛知県とは経済関係において輸出入ともに一般機械、自動車を始めとする輸送用機器が半分以上を占め、県下の企業が支店を持つなど深い関係があります。愛知県ハンガリー友好協会は 21 年目を迎え、互いの文化を学ぶ場として、両国の一層の友好に寄与できるよう、また協会の皆様が熱意をもって楽しく活動に取り組むことができますように今後も努力して参ります。

末筆になりますが、皆様の今年一年のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



《 設立 20 周年記念誌 》

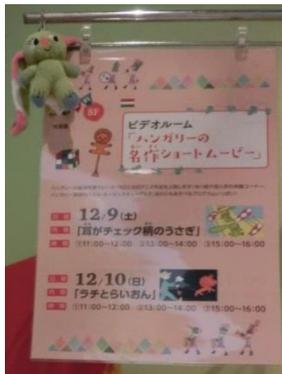


1997年10月に愛知県ハンガリー友好協会が設立して20年になるのを記念して「設立20周年記念誌」を作成いたしました。

内容は、駐日ハンガリー特命全権大使パラノビチ・ノルバート様、日本ハンガリー友好協会理事長鍋倉眞一様、ハンガリー日本友好協会会長ヴィハル・ユディット様、国立リスト音楽院元院長ファルヴァイ・シャーンドル先生、ハンガリー盆栽コレクション管理人カトナ・エルヴィン様、ソンバトヘイ日本友好協会会長シュミット・チツラ様、愛知県ハンガリー友好協会の藤川政人会長はじめ役員会員の皆様の祝辞やエッセイなどの寄稿文と、1997年の設立経緯から2017年までの活動記録、イベントのリーフレットも巻末資料として載せました。

20年前から今日まで世の中はずいぶん変わってきました。この長い年月の間、日本を愛するハンガリーの皆様、ハンガリーに魅せられた愛知県また中部の皆様のご協力のお蔭で沢山の文化交流事業を行うことができました。どうぞゆっくりお読みいただき、これからもひきつづきご支援ご協力を頂ければ幸いです。

《 子どもアート万博 2017 》 主催：(公財) 名古屋市文化振興事業団



2017年12月9日(土)、10日(日)11:00~17:00 名古屋市中区栄のナディアパークで行われた「子どもアート万博 2017」では幼稚園から小学生までのお子さんたちが世界各国の文化を楽しみました。

当協会も名古屋市文化振興事業団から依頼を受け、8Fビデオルームで『ハンガリーの名作ショートムービー』と題して、ハンガリーの絵本作家マレーク・ベロニカさんの「耳がチェック柄のうさぎ」と「ラチとらいおん」を上映しました。「耳がチェック柄のうさぎ」は2枚のDVDに26のアニメが収録。「ラチとらいおん」の映像は絵本とは違ってとてもカラフルです。子供たちはうさぎさんとらいおんくんが活躍するビデオに見入っていました。お部屋壁面にはハンガリーの子供たちの絵を展示、マレーク・ベロニカさんの絵本を読んだり、ぬり絵をしたり、指人形を作ったり、ルービックキューブに苦戦したりと、子供たちは時間を忘れて夢中になっていました。参加者は、各日20人定員を3回の予定でしたが、1日目は135人、2日目は144人とたくさんのお子さんたちが楽しみました。



《ハンガリー料理でクリスマス会》“THE ハンガリーの食卓”

年末の恒例行事「ハンガリー料理でクリスマス会」を昨年12月17日(日)9:00から名古屋国際センター3F第1研修室で行いました。今回も“THE ハンガリーの食卓”と題してハンガリーの家庭料理「プルクルト pörkölt (お肉の煮込み料理)」「ポテトサラダ krumpli saláta」「パラチンタ palacsinta」を作りました。指導は会員の遠藤綾女さんです。



「プルクルト」に入れるお肉は、牛肉、豚肉、鶏肉、どれでもよいそうです。今回は鶏肉で作りました。「グヤーシュ」のように、じゃがいも、人参、白にんじんなどお野菜いっぱいはいりません。玉ねぎのみじん切りだけで、とにかくお肉がいっぱいです。「ポテトサラダ」はじゃがいもの酢漬けで、酢にしっかり漬けるために、遠藤さんが2~3日前に作ったものを持ってきて下さいました。「パラチンタ」はフライパンで薄く焼くのが難しく、今回初めて参加した男子2人もとても興奮しながら作ってくれました。

ピック社のマンガリッツァサラミ、ステファンペペのパン、スズキのワインに加え、参加者も沢山のお菓子や果物などを持ち寄りました。



大垣から参加した小学生2人もエプロンをつけお手伝いしてくれました。

みんなで作ったハンガリー料理。本当に美味しくできました。



副会長の酒井庸行先生と小牧市長さんからの祝電の披露があり、ハンガリーワインで乾杯をいたしました。乾杯の音頭は会員の寺崎さんで、とても楽しい乾杯でした。



会員の方で今回初めて参加して下さった方、会員ではないけれど誘われて参加して下さった方々とみんな一緒にお料理を作りながら、また、美味しくお料理を頂きながら、ゆっくりといろいろなお話ができ楽しいひとときでした。とても良い交流の場になったと思います。



次回のクリスマス会には是非皆さまもご参加ください。美味しいハンガリー料理を頂いて幸せになります。

《アニメおやじのハンガリー紀行—天空の城ラピュタを訪ねて》IV

会員：寺崎 博光

【いよいよスピシュ城へ】

7月27日午前8時、私の今回の旅の最大の目的である、スロバキアのスピシュ城へ向けて出発です。車は三菱製の古いマニュアル車で、娘夫婦が通訳として一緒に行ってくれることになりました。

まずはブダペストに向けて高速道路を北上します。ブダペストからは東へ、ハンガリー一第三の都市ミシュコルツへ向かいます。この都市は人口17万6千人、旧ソ連のコメコン体制時代に工業都市として急激な発展をとげたそうです。ミシュコルツから高速道路を下りてスロバキアのコシツエを目指して北上します。ちなみに東へ行くと世界三大貴腐ワインの産地トカイです。

ミシュコルツからの道路は、古いヨーロッパの街道といった感じでした。北にはスロバキアの山々が見え、左右にはハンガリーの大平原が広がっています。どこまでも続くヒマワリ畑とトウモロコシ畑、そして牧草地には刈り取った後の牧草のロールがいくつも転がっていました。



国境のヒダシュネーメティに着きました。今は廃墟になった国境検問所がありました。以前は機関銃を持った兵隊が警備し、検問待ちの車が長い列をつくっていたのでしょう。

旧国境検問所の左側に新しい道があって自由に通行ができます。高速道路は料金所といったものがなく、あらかじめガソリンスタンドでステッカーを買って、それを車に張っておくだけです。スロバキアから高速道路に

入り、しばらく走ると眼下にスロバキア第二の都市、人口 24 万人のコシツエの町が美しく広がって見えてきました。製鉄所でしょうか、大きな工場の煙突から煙が何本も上っていました。

コシツエはハンガリーとポーランドの中間に位置し、通商都市として栄えた町です。2013 年には欧州文化都市に指定され、各種の芸術イベントが開催されているそうです。

丘の上に黄色や青色に塗られた旧ソ連風のマンションが何棟もあります。スロバキアは資源の少ない農業国だとの先入観がありましたので、直感でこれは工場の労働者の住宅なのだろうと思いました。



山をいくつも超えて、山脈をぶち抜いた長いトンネルを抜けた途端、目の前に雨に煙るスピシュ城がいきなり現れました。大感激でした。

「僕はついに来たんだ」

この瞬間は今でも忘れることができません。夢が叶った瞬間でした。

トンネルの向こうは雨が降っていました。スピシュ城を左手に見て、ぐるりと回るとスピシュケー・ポドフラディエの町がありました。いかにも中央ヨーロッパの、美しい静かな町といった感じです。町の中央の高い塔の教会と、赤い屋根のヨーロッパ風の三階建ての家が印象的でした。

スピシュ城は巨大な廃墟の城でした。いまだに修復作業中でしたが、内部もまだまだ荒れ果てたままです。城の上部から下を見たとき、私は叫びそうになりました。

「あっ、ラピユタだ！」

私は興奮しました。城の広い中庭はアニメの作品の中で、主人公のバズーとシータが見張り用のたこに乗って、龍の巣に吸い込まれてラピユタに到着した場面、そしてロボットが出てきて二人がロボットについていく、あの場面にそっくりだったのです。



城壁から見ると麓の村ははるか眼下に広がり、まるで空を飛んでいるかのようです。遠くには雲の上に山脈が見えます。あの山脈の向こうがポーランドなのでしょう。ため息が出るような雄大な大パノラマでした。苦労して、苦労して、来たかがありました。

年金生活者になって、もう海外旅行なんて夢の話でした。そして死ぬまでに一度は行ってみたいと思っていた、スタジオ・ジブリのアニメが大好きな私の最後の夢である、スロバキアのスピシュ城に行けるとは思ってもいませんでした。

私が軽い気持ちで言った言葉を真に受け、最高の親孝行をしてくれた娘夫婦と、今回の旅のために三菱製の古いマニュアル車を大切に手入れし、往復 800 キロの道のりを

安全運転してくれたイムレさんには本当に感謝しています。いつも陽気に明るく振る舞ってくれ、ハンガリー人のおやじの代表のような方でした。お互いに言葉は分かりませんが、イムレさんとはとても気が合いました。

今回の旅行は死ぬまで私の自慢です。ラピュタのモデルを訪ねて、はるばるスロバキアのスピシュ城まで行った物好きの日本人は、私ぐらいではないかと思います。

おわり

● 新聞記事

中日新聞 1月7日朝刊「グローバル愛s」で会員のチョルダーシュ・ジュラさんが紹介されました。ジュラさんはNHK「おもてなし中部 in 愛知常滑市」にも出演、常滑市のおすすめスポットを紹介してました。愛知で活躍しているハンガリー人です。

ピンとはねた口ひげがトレードマークのチョルダーシュさん。ハンガリー独特のファッション、というわけではなく隣国オーストリアのフォークバンドのまねで始めたのだという。「ハンガリーで子どもに笑われたこともあります」

すぐに出来る。おしぼりの手渡し方にまで様式があるように見える。「ハンガリーでは、いかげんなウエーターが多い。たまにいい人にあたるとうれしいくらい。社会主義時代の影響があるのかも」

ただ、過剰丁寧さには疲れることも。注文を取るときに客の脇でひざまずくような接客を受けるのは好きでないし、複雑な追加サービスを紹介してくるのにも困る。「普通に対応してくれば良いのに」と思うことはしばしばだ。

同国の首都・ブダペスト出身。子どものころから語を本格的に学ぶことだった。

日本語を学べる大学に入学。ハンガリーにいる日本人がつくるバンドに加わったり、日本語会話サークルに参加したりと積極的に日本人と交流した。

5年前、知多半島で毎年開催する音楽祭に出演する

ため初来日。現在動いている市民センターでは、故郷の味のハンガリー料理を学んでもらう教室を開催する。「いきなりハンガリー語の講座を開くのは難しいけど、まずは料理から知ってもらって、少しずつ交流を深められれば」と意気込んでいる。(小西数紀)

ハンガリーは、欧州連合(EU)内の移動の自由を保障した「シェンゲン協定」加盟国の中で東端に位置。多くの難民がハンガリー経由で西欧を目指す。2016年10月、EUが各国に割り当てた難民の受け入れ分担の是非を問う国民投票があった。投票率が過半数に達せず成立しなかったものの、有効投票のうち難民増加を嫌う反対票は98%超。国内では、国境にフェンスを設けて難民の受け入れを阻止する動きもある。

ハンガリー出身 チョルダーシュ・ジュラさん(31) 常滑市、公民館職員

● プロムジカ女性合唱団コンサート



ハンガリーのプロムジカ女性合唱団の指揮者デーネシュ・サボーさんは、日本とハンガリーの長年にわたる合唱交流の功績により、昨年秋、日本政府から「旭日双光章」の勲章を授与されました。

日時：2018年4月6日(金)19:00 開演
 会場：三井住友海上「しらかわホール」
 料金：一般 4,000円 小・中・高生 2,500円(全自由席)

● ハンガリーフェスティバル in 愛知

今年の「ハンガリーフェスティバル in 愛知」は6月3日(日)13:30~16:30、講演はパラノビチ大使、演奏はジプシーヴァイオリンの古館由佳子さんをお願いできることになりました。詳細は改めてご案内いたします。どうぞお楽しみに！今年もどうぞよろしく願いいたします。